

学科名	生物環境化学科						
科目名	ブラッシュアップ英語Ⅱ						
科目区分	リテラシー科目	単位数	1単位	開講時期	2年時後期		
必修・選択の別	選択必修科目						
担当者	高野裕子(非常勤)						
授業の到達目標 (シラバスから)	(1)日米の大学生生活や文化の違いに関する理解を深める (2)正しく読める、正しく聴ける、相手とうまくコミュニケーションがとれるスキルを養う						
日程と内容	(1) 9/15 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法 (2) 9/22 Unit 7: Chemistry (3) 9/29 Unit 8: Pre-WeddingParties (4) 10/6 Unit 8: Pre-WeddingParties (5) 10/20 Unit 9: Driving in the United States(1) (6) 10/27 Unit 9: Driving in the United States(1) (7) 11/10 Unit 10: Driving in the United States(2) (8) 11/17 Unit 10: Driving in the United States(2) (9) 11/24 Unit 11: Pastime (10) 12/1 Unit 11: Pastime (11) 12/6 Unit 12: Relaxing Time (12) 12/8 Unit 12: Relaxing Time (13) 12/15 Unit 13: Words of Encouragement (14) 12/22 Unit 13: Words of Encouragement (15) 1/19 Review (16) 1/26 定期試験						
成績評価基準	定期試験	40%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	30%	計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	前期同様、講義2回が終る毎に課した計6回のレポートで、学生達は日米の大学生生活や文化の違いをそれぞれに表現しているため、到達目標(1)の達成%はかなりあったと思われる。(2)の「正しく読める、聴ける」能力は後期においてもさほどの伸びが見られず、リスニングとリーディングの更なる訓練が必要と思われる。コミュニケーションスキルの養成に関しては、ビッグサイズのクラスでは十分に時間が取れなかったのが残念である。						
反省点	学生数が100名近く(情報学科+生物環境化学科)の講義では、(学生からの質問がほとんどない事も手伝って)どうしても教師側のスピードで事を進めてしまいがちである。学生がどの程度授業内容を理解しているのかを、小テストや定期テスト以外の場(=授業中)で、なるべく多くの学生に質問をして確かめながら指導できればと思う。						
来年度の計画	来年度は違う教科書を使うが、引き続きアメリカのキャンパスを舞台に日米の文化の違いについて学習していくので、課題のレポートで学生達の「文化の相違に関する関心度」を見ながら、彼らの積極的授業への取り組みを図りたいと思う。						
授業評価アンケートに対するコメント	「授業に刺激され授業内容に興味を持つようになった」の評価値3.7は低い。今学期にもまして、学生を刺激して積極的な授業参加を促すには...が来年度もまた課題である。						
履修登録者数	42名	定期試験 受験者数	30名	合格者数	22名	合格率	73%